

## 愛知県（平成22年度）

この記念貨幣は、「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」をテーマに、発行されるものです。

記念貨幣の表面は、名古屋城天守閣の金鯨（雌）と愛知県の県花であるカキツバタを渥美半島（恋路ヶ浜）とともにデザインしています。

※名古屋城天守閣の金鯨：名古屋城は、西暦1610年に築城が開始され、天守閣に金鯨（雌雄一対）が飾られた。

昭和20年に戦災で焼失したが、昭和34年に天守閣とともに金鯨も復元された。

※カキツバタ：アヤメ科の多年草。小堤西池のカキツバタ群落（愛知県刈谷市）は、日本三大カキツバタ自生地のひとつと言われ、国の天然記念物にも指定されている。

※渥美半島：県の太平洋沿岸に伸びる半島で、半島先端に程近い恋路ヶ浜は約1Kmの美しい砂浜。また、太平洋側の表浜海岸一帯は、環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）において「絶滅危惧」の種に掲げられているアカウミガメの産卵地となっている。

（平成22年10月11日～29日までの間、名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）開催）

## 青森県（平成22年度）

この記念貨幣は、「りんごとねぶた（ねぶた）、三内丸山遺跡等」をテーマに、発行されるものです。記念貨幣の表面は、青森ねぶたと弘前ねぶたを青森県の代表的な農産物であるりんご（ふじ）とともにデザインしています。

※青森ねぶた、弘前ねぶた：ねぶた・ねぶたは、県を代表する文化・観光資源であり、古くから夏祭りとして県内各地で行われている。その代表格の青森ねぶたは豪華絢爛な人形型の山車が、弘前ねぶたは色鮮やかな扇形等の山車が市内を練り歩く。いずれも国の重要無形民俗文化財であり、平成22年に指定30周年となる。

※りんご：青森県を代表する農産物。生産量日本一。主力品種である「ふじ」は平成22年に生誕70周年となる。

## 佐賀県（平成22年度）

この記念貨幣は、「佐賀県を代表する人物である大隈重信侯とその功績」をテーマに、発行されるものです。

記念貨幣の表面は、佐賀県を代表する人物である大隈重信の肖像と伊万里・有田焼（柿右衛門様式）をデザインしています。

※大隈重信（西暦1838年～1922年）：佐賀県出身。幕末、明治・大正期にかけて活躍し、大蔵卿、外務大臣、内閣総理大臣などを歴任。東京専門学校（後の早稲田大学）の創設者としても有名。また、我が国の現在の通貨単位に「円」の採用を建議したとされており、平成23年は、「円」を定めた新貨条例（明治4年布告）から140周年。

※伊万里・有田焼：佐賀県を代表する伝統産業であり、国の伝統的工芸品にも指定されている。17世紀初頭に始まり、初代酒井田柿右衛門によって赤絵（上絵付）の技法が始められると、華やかな製品が次々と生み出された。貨幣の図柄には、柿右衛門様式文様（『色絵草花鶴文輪花皿』（佐賀県立九州陶磁文化館所蔵））を採用。なお、大隈重信は、ウィーン万国博覧会（1873年）への伊万里・有田焼の出品を後押しし、その後の海外輸出を支援するなど、その振興に大きく寄与している。